

兵庫県パリ事務所及びパリ東大学 インターンシップ報告書

経済学部 2年

氏名 青井 梨奈

期間：平成 30年 3月 5日～ 4月 6日

● インターンシップの研修内容

◎月、水、木、金曜日

- ・小学校で授業（日本の遊び 折り紙）
- ・中学校で授業（日本の遊び かるた）
- ・高校で授業（プレゼンテーション 日本の学校生活）
- ・大学で授業（プレゼンテーション 日本の女性問題）

日本語の授業がある学校を訪問した。普段は日本語の会話や文法の授業が行われているので、日本人である私たちから少しでも日本の文化を知ってもらうためにプレゼンテーションなどを行った。小学生や中学生には分かる範囲内のフランス語で、高校や大学では英語と日本語を用いて行った。

◎火曜日

- ・兵庫県パリ事務所訪問
- ・現地在住の日本人女性へのインタビュー(2回)



● インターンシップに必要な英語力・スキル

◎英語力

フランス語が話せる方ならあまり必要ない。私が一か月滞在した感覚では半分以下のフランス人としか英語ではコミュニケーションができない。また英語が通じても様々な英語の訛りになれる必要がある。

◎フランス語

リスニングなどもして日常会話レベルはできるほうがいい。私はほとんど話せないままの渡航で、話題の内容ぐらひは分かるけど会話に参加できない、という悲しい状態が続いてしまった。また私の場合はホストマザーやホストファザーがフランス語しか話せなかったのが物事を伝えたり、理解することに苦労した。

◎積極性

慣れない言語であるが話すことに消極的になってはいけないと思う。フランス人は議論が大好きで会話がテンポが考えられないスピードで変わっていく。話の上から違う話題を被せるようなことが日常茶飯事である。そのため怖気づいていると会話についていけなくなるし、自分を成長させることができない。こちらが話そうすると一生懸命に聞いてくれるので沢山話したほうがよい。

● インターンシップで得たこと

インターンシップを通して得たことは主に三つある。一つ目はやはりコミュニケーション力だ。一年の時に第二外国語でフランス語は学んでいたが、会話をしたことはなかった。なのでフランス語を母語とし英語が分からない学生やホストファミリーとのコミュニケーションには本当に困った。伝えないといけないのに上手く伝えることができない辛さを実感した。しかしスキルのところで書いたように積極的に話をしたいという気持ちを持っていれば何とか伝わると知った。

二つ目は固定概念に縛られているのは面白くないということ。多人種の国だからなのか、考え方が無限なフランスで過ごすことによって自分の考え方が狭くなってしまったと感じた。自分を大切に、また習慣や文化、当たり前が違う他人も広い心で受け入れるという考え方を手に入れた。

三つ目はフランス語を教えてくれる友達。日本に留まっているだけでは得ることができなかった大切なモノの一つである。



- **印象に残ったこと**

先進国でお洒落でスイーツの美味しい国のフランス人でも将来は日本に住みたいと真剣に考えている学生が多かったことに驚いた。日本にいただけでは考えることはないが、日本の良いところ、悪いところについて考えるいい機会になった。また日本人の習慣や文化について日本人代表として聞かれることの責任の重さも感じた。

- **インターンシップが今後どう活かされていくか**

今回のインターンシップで今まで気づくことができなかった自分の強みを見つけることができた反面、勉強不足などという課題を見つけることができた。目の前に控えている就職活動だけではなく、今後の人生に活かしていこうと考えている。

- **後輩たちへのメッセージ**

人生は一度きりなのでチャンスを逃した後悔というのはもったいないです。このインターンシップだけでなく興味を持ったことには是非飛び込んでください。私自身、飛び込んで様々なベースのある方と出会い、色々な方面から影響を沢山受けています。まだこれが将来的に影響されるのかは私もわかりませんが、マイナスやゼロになることはないと思っています。皆さんも積極的になって沢山ある目の前のチャンスをつかんで、自分がおかれる状況を楽しんでください。